

宇都宮市立国本中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習のねらいの提示とまとめの活動の工夫	○ 本時の学習目標を児童に分かる言葉で具体的に表したねらいを、教師と児童が共有できるようにする。 ○ 前時の学習に触れて学びの連続性を促したり、学習の方向性を明確に示したりして、児童の興味関心を高め、主体的に解決しようとする学習のねらいを提示する。 ○ 学習の解決方法についての見通しがもてるよう工夫する。 ○ 学習の振り返りを通してねらいの達成度や自己の成長などを意識させるようにする。 ○ まとめ活動では、学習して分かったこと	○ 「めあてをもって学習に取り組んでいる」という肯定回答率は、99%だった。教師と児童がめあてを共有して学習に臨むことについては習慣化された。 ○ 校内研究を通して、学びの連続性を促し、児童の主体性をもたせるめあての提示については継続して工夫していく必要がある。 ○ めあては、児童の分かる簡単な言葉で提示したので、見通しをもって学習を進めることができるようになった。 ○ 「まとめをノートに書いている」という肯定回答率は、99%、「学習の振り返りにより、自分の学びのよさや、できるようになった自分に気付くことができた」とい
書く活動の充実	○ 授業の中で自分の考えや分かったことを書く活動を位置付ける。 ○ 虫食いの文章で例示したり、キーワードを提示したりして、何をどのように書けばよいのか分かるようにし、段階を踏んで、自分の言葉で適切に表現できるようにする。 ○ すべての児童が自分の考えをもてるよう、根拠となる事象を明確にし、必要に応じて児童にヒントとして示すようにする。	○ パワーアップシートやフォローアップシートによる記述式問題の正答率は、47.5%となり、課題だった無回答率が16.1%から0%に減り、改善が見られた。 ○ 授業の中で、虫食いの文章で考えを書いたり、キーワードを提示したりして、問われている内容を焦点化したことにより、何を考えたらよいかが分かり、考えを書けるようになってきた。 ○ 自分の力で、根拠をもって考えることを苦手とする児童には、観点を示すことで考えをもてるようにした。さらに正答率を上げるために、読み取りの力を付けさせる必要がある。キーワードに線を引くよう助言し、根拠を明

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○1年間に行われた国・県・市の学習内容定着度調査では、基礎的・基本的な知識や技能の習得について市の平均と本校児童の結果で大きな違いは見られなかったものの、記述式の問題においては、市の平均より低い項目が多く、課題が見られた。そのことから、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るノートの書き方指導に重点を置いて指導を行ってきた。年度末の検証結果から改善が見られたので、今後も継続して指導を行っていくようにする。また、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るために、少人数での話し合い活動も取り入れてきた。少人数で自分の考えを伝えることには慣れてきたが、全体での話し合いになると自分の考えを話すことに苦手意識を持つ傾向があるので、クラス全体での話し合いの場を計画的に設け、言語活動による知識や技能の確実な定着を図っていきたい。そのために、本時のねらいに沿った話し合いの視点を示し話し合う目的を共有したうえで、焦点化した話し合いができるようにする。さらに、考えた理由や根拠を明らかにしたり、違った考えを比べ合ったりして事象を多面的に捉えられるようにし、学びを深め、適切な方法で知識等を言語化できるようにした。